第３７回全国造園デザインコンクール　実習作品

庭の入口付近は瓦を縦使いとし、鉄平石と組み合わせることで「波打際」を表現した。正面から見た水盤までのアプローチは、同じく瓦を別方向の縦使いとして、「さざ波」を表し、敷地全体の砂利留めにも瓦を使用した。

瓦を横に積み上げた塀は、神奈川県を代表する山並みの一つに数えられる「大山」を借景し、庭の背景として位置づけた。

瓦は一般的に屋根としての素材に使用されているイメージがあるが、この庭は、瓦という一つの素材から、様々な表現や用途があることをねらいとしたモデルガーデンでもある。

庭の右奥に据えた水盤は「バードバス」であり、隣に植栽した「ソヨゴ」の実を食する様々な野鳥の姿を観察して楽しむ事が出来る。周辺の下草は、フッキソウやヤブランを使用して根締め植栽とした。庭の主木となる「カツラ」は、水辺の樹木として表現するのに適しているために植栽することとした。

Expression Garden

この庭は、対象地である神奈川県厚木市が有する地域の特性を抽象化して表現(Expression)したモデルガーデンである。瓦を積み重ねた塀は、大山の山並みを縮景すると共に、2つの瓦山の間からは本物の大山が借景され、地域特性を読み込んだ庭である。ゴロタ石とタマリュウの植栽による曲線のラインは相模川を表し、手前の砂利は相模湾の大海を模した。さらに、曲線の中に御影切石による直線的なディティールを組み込む事で、モダンな時代性を表現し、庭に広がりを持たせ、波をイメージさせる動的な景色を表現している。

瓦を縦に使用し鉄平石と組み合わせて「波打際」を表現。

敷地全体の土留めとして瓦を利用。

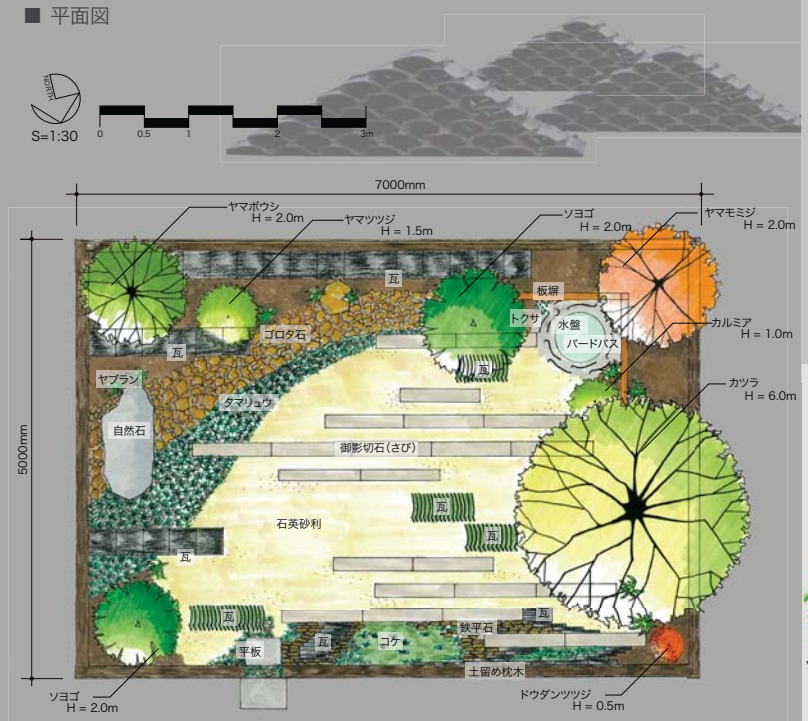
瓦を水盤(バードバス)に沿って縦使いに埋め、水の波紋をイメージ。

瓦を縦使いに埋め、水盤までのアプローチと共に「さざ波」を表現。

瓦を積み上げ「山並み」に見立て、奥に見える「大山」を借景。

二本のカツラを株立ちに仕立てたので、オレンジ色と黄色の二色の黄葉を見ることができ季節感を演出している。また、「ソヨゴ」は海から川、そして山へと流れる「風」をイメージさせ、「バードバス」の背景となる板塀の奥に植栽した「ヤマモミジ」は、庭の控えであると同時に、紅葉時に庭を引き立たせる効果を持つ。

■ 平面図



■ 対象地周辺図

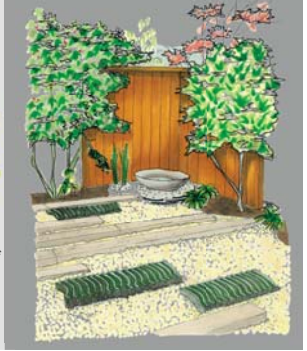
■ 造園施工実習内容

造園施工実習は、キャンパスの一角に自分たちでデザインした庭を作庭する実習である。作庭場所は、6ヶ所あり、毎年１作品か2作品の庭を作り、過去の庭を解体し新しい庭へと更新するシステムである。その場所は学生が通学路として利用する際に、道から作品が見られるようになっている。実習のはじめには、一人一人が基本計画図、透視図、スケッチをもとにプレゼンテーションを行い、本年度は14人の中からコンペ形式で選出された本作品を全員で作庭した。

この庭は、材料代として８万円を使用し、他の材料はなるべく既存のもの有効再利用するよう心がけた。指導教員4名、造園施工実習履修者の学生14名で7日間の日数をかけて施工した。

■ 透視図 ～プレゼンテーションで用いた透視図～

■ イメージスケッチ



■ 作業工程

敷地区分を出すため、測量を行い、やり方工・地割工を経て地盤を平らにする。

御影切石の据え付け。水糸と水平器を使い、バールで突き固める。

瓦の据え付け。瓦の据え付ける部分を全て掘り、一定間隔で決めていく。

大海の波を表現する御影切石のライン。全体のバランスを見ながら作業を進める。

三又とチェーンブロックで自然石を据える。三又の脚を3人でしっかりと固定しながら安全に進めていく。

水盤(バードバス)を囲むように設置した板塀は大山を借景する見切りとなる。

高さが6mのカツラ。位置だしをした場所に移植する。

背景となる瓦の塀。一段ずつ水糸をはり、モルタルで固定しながら積んでいく。

防草シートを敷き、海に見立てた砂利を庭全体に敷きつめる。

■ 作業工程表

工程名 ＼ 日程	9/29	10/6	10/13	10/20	11/10	11/17	11/24
作庭解体工							
やり方工・地割工・整地工		Photo1					
板塀工				Photo6			
石据え付け・瓦(後ろ)工			Photo2	Photo3			
石据え付け・瓦(前)工				Photo4-5			
瓦塀工						Photo8	
高木植栽工					Photo7		
低木・地被植栽工							
ゴロタ・砂利敷き工							Photo9
整地工・完成							